

浜松市“やらまいか”総合戦略推進会議 議事要録

日時：平成 28 年 6 月 30 日（木）

午前 10 時 00 分～午前 11 時 50 分

場所：浜松市役所本館 5 階 庁議室

1 開 会

浜松市企画調整部長 山名

ただいまから、浜松市“やらまいか”総合戦略推進会議を開会します。

はじめに、この会議の座長を務めます浜松市長から、ごあいさつを申し上げます。

2 市長あいさつ

浜松市長

皆さんおはようございます。この度は、浜松市“やらまいか”総合戦略推進会議の委員をお引き受けいただくとともに、本日は、大変ご多用の中、会議にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

すでに皆さんご承知のとおり、日本がいよいよ本格的な人口減少時代を迎えまして、国は 26 年の 11 月に「ひと・まち・しごと創生法」を制定しまして、ひと・まち・しごと創生本部をつくり、本格的な地方創生に乗り出しました。もちろん国も戦略をつくって取り組みますが、それぞれの地域が自分たちで知恵を出し、汗をかき頑張れというのが地方創生で、すべての自治体に、人口ビジョンと総合戦略の策定を義務付けたわけであります。

浜松市も昨年の 12 月に、人口ビジョンと総合戦略を策定しまして、その時にヒアリングでお世話になった方も、今日は委員としてお越しいただいていますけれども、今後はその総合戦略を実行していくという段階に入ってきました。

この推進会議においては、総合戦略を、3 つの基本目標で策定をしておりますけれども、1 つは、産業政策を進めることによって雇用を創出し確保していく。そのことによって若い人をはじめ人口を浜松に定着させる。あるいは外から人を呼び込む。そして子育て支援や教育を充実させて出生率を上げていく。もう 1 つは、魅力あるまちづくりによって、交流人口を拡大していく。こういう 3 つの大きな柱の下に、それぞれ数値目標を設定しました。

これからそれぞれの施策を推進していく中で、その数値目標を達成していく。こうした施策の推進について、皆様にはしっかりとご検証いただき、施策の見直し等のご提言をいただきたいというのが、この会議の趣旨でございます。

計画はつくって終わりではございません。特に今回の地方創生は、いよいよ厳しい都市間競争の中で、それぞれの地域が、生き残りをかけた本格的な取り組みが始まるということでございますので、われわれもしっかりと肝を据えてやっていきたいと思っております。皆様にもぜひ、建設的で前向きなご意見をちょうだいできればと思っておりますし、またこれは行政

だけで達成できることではありません。市を挙げて取り組んでいかなければいけない課題だと認識していますので、施策の実行に関しましても、皆様にはさまざまな形でご協力いただきますことをお願い申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

3 委嘱状交付

浜松市企画調整部長 山名

続きまして、今回の推進会議の委員の皆様にご用意させていただいております。委員を代表いたしまして、浜松学生ボランティアネットワークの柴田直緒子様に、市長から交付をさせていただきます。

なお、他の皆様につきましては、事前に席上に配布をさせていただいておりますので、ご確認をいただければと思います。

浜松市長

委嘱状

柴田直緒子様 浜松市“やらまいか”総合戦略推進会議委員に委嘱する

平成 28 年 6 月 30 日 浜松市長 鈴木康友

どうぞ、よろしく申し上げます。

柴田委員

よろしく申し上げます。

浜松市企画調整部長 山名

ありがとうございました。それでは、お席へお戻りください。

なお、委員の皆様は 23 名ということですが、本日、所用がございまして木村委員が欠席ということがございます。よろしくようお願いいたします。

それでは、次第に沿いまして進行をさせていただきます。次第の 4、5、6 でございます。事務局から資料に基づいて説明をさせていただきます。

4 浜松市“やらまいか”人口ビジョン、浜松市“やらまいか”総合戦略について

浜松市企画調整部次長 松永

それでは、事務局から説明をさせていただきます。最初に、人口ビジョンと総合戦略、これはおさらいになるかもしれませんが、簡単に触れさせていただき、その次に PDCA サイクル、浜松市ではどのような効果検証をしているかという内容を、お話をさせていた

だき、最後に、皆さんにお願いをしていくスケジュールについて、お話をさせていただきたいと思っています。

それでは、今日は時間の関係もごさいますので、人口ビジョンと総合戦略の概要をまとめたものがお手元にあるかと思ひます。こちらでご説明をさせていただきたいと思ひます。

右側のページですが、浜松市“やらまいか”人口ビジョンと浜松市“やらまいか”総合戦略の概要となっています。左側には国の、まち・ひと・しごと創生長期ビジョンと総合戦略の概要がごさいますので、両方見ながら説明を聞いていただければと思ひます。

最初に、先ほど市長も申し上げましたが、平成26年の11月に「まち・ひと・しごと創生法」が成立しまして、それに基づいて浜松市は、人口ビジョンと総合戦略をつくったわけです。ただし、浜松市の人口ビジョンと総合戦略の策定のベースというのは、昨年4月からスタートをしている浜松市の総合計画、30年間の計画がベースになっています。後ほど効果検証のところでも、また触れさせていただきますが、まずはその30年の中の、最初の5年間という形で考えていただければと思ひます。

それでは、まず人口ビジョンですが、中段のところになります。これは人口の現状分析を踏まえまして、人口の将来展望を提示したものです。

グラフをご覧いただきたいと思ひますので、下の青い点線の部分が、浜松市の推計人口ということになっています。浜松市の将来の推計人口は、もし仮に現在の出生率と移動率などがこのまま続いた場合には、80万人いた人口が2040年には69万5,000人、そして2060年には、56万4,000人という推計になっておりまして、さらに2100年には、34万4,000人という推計になっています。これは何もしなければという状況です。

そうなるのはいけないので、浜松市としては、若者子育て世代の生活基盤の安定、希望出生数をかなえる環境の整備、そして誰もが引き寄せられる都市の魅力を創出という、こういった戦略的な対策を実施していくことによって、合計特殊出生率を2025年までに1.84、2035年までに2.07とするということ。それから社会移動も2020年までには、東京圏との社会移動を均衡させる。ここでは20代から30代の男女の方を対象に、ターゲットにして均衡させていこうということ、目標を立てています。そうすることによって、今度は赤いラインになりますが、現在の人口が、2040年には73万4,000人を、2060年には65万9,000人ということで、2080年からは、おおむね60万人ぐらいで推移をするという、そういった形が整うということになっております。まずここを目指して行こうということで、浜松市は人口の将来展望をしています。

総合戦略では基本目標と数値目標を掲げております。3つ基本目標がごさいます。1つは「若者がチャレンジできるまち」、仕事のない場所に人は集まらないということで、若者・子育て世代の生活基盤の安定を目指しています。

2つ目の基本目標ですが、「子育て世代を全力で応援するまち」、理想とする家族像が実現できないなんて夢がないということで、希望出生数をかなえる環境整備に努めています。

そして基本目標のⅢですが、「持続可能で創造性あふれるまち」、浜松に住み続けたい、浜松で暮らしたいと思っていただけるように、誰もが引き寄せられる都市の魅力の創出を目指しています。それぞれ数値目標が、2024年までの数値目標を掲げています。これは先ほど申し上げた総合計画に準じている内容です。

右側をご覧ください。基本目標に対応した基本的方向と政策体系と記載があります。まず基本目標Ⅰでは、地元産業力の強化という部分、2つ目に労働供給力の開拓、そして基本目標Ⅱでは、結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援と、創造都市・浜松を担う次代の育成を目指しています。

基本目標Ⅲでは、1番目に安全・安心なまちづくり、2番目ににぎわいの創出、3番目にささえあいによる地域社会の形成、4番目にコンパクトでメリハリの効いたまちづくりということで、創造性あふれるまちを目指しています。

施策ですが、特に浜松市としては、基本目標のⅠ「若者がチャレンジできるまち」の地元産業力の強化というところを、強く押し出しています。これは浜松市の特徴ということになりますが、特に新産業の創出、海外展開支援、企業誘致の推進、創業支援という4本の矢を中心に、産業力の強化を図っていこうと考えています。これにより、雇用の確保を第一に考えて進めていくものです。

ただし、それだけでは人が定着し、子どもを生ま育てるところまでは行かないので、それと併せるようなかたちで、結婚・妊娠の希望を全力で応援するという方向性のもと、ここには記載はありませんが、婚活ですとか、待機児童解消と子育て支援の充実というところにも、力を入れていこうと考えています。

最後のところでは、災害に強いまちづくりの推進ということで、皆さんもご存じのとおり、浜松市に住むことが非常に安全であるということをご皆さんに知っていただくためにも、防潮堤の早期実現というところを、第一に掲げています。

施策については、全部で44の施策になりますが、これを平成31年度まで、しっかりと進捗管理をしながら進めていきたいと考えています。

5 浜松市のPDCAサイクルについて

進捗管理について、ご説明させていただきます。資料4の浜松市戦略計画2016をご覧ください。目次の次に、「浜松市総合計画の実行に向けて」というページがあり、戦略計画は市の重点施策やその目標を掲げて、政策や事業とともに、行財政改革や資源配分などの考え方を含めた、市政全般にわたる方向性を示し、環境の変化を踏まえて毎年度策定する計画と定義しています。

この戦略計画の位置付けですが、2ページをご覧ください。浜松市の未来ビジョンが最上位にあります。これは30年先の理想の姿というものを描いているものです。次に第1次推進プラン、ここは平成36年までの10年間の政策をまとめています。

最後に戦略計画ですが、これを毎年策定しています。人口ビジョンと総合戦略については、個別計画という記載がありますが、ここに位置しています。戦略計画に総合戦略に基づく事業を記載し、しっかりと進捗管理していく仕組みになっています。

4 ページをご覧ください。この戦略計画は、市のすべての政策と事業が入っていますので、2 行目に、約 120 の政策、約 1,000 の事業をこの中で進捗管理をしています。毎年これを策定することで、戦略計画を核とした PDCA サイクルによる経営のしくみを確立しています。

総合戦略については、47 ページから 57 ページに記載しています。

48 ページをご覧ください。基本目標 I 「若者がチャレンジできるまち」、I-1 の地元産業界の強化と記載しています。皆様にご覧いただいた概要の内容を数値目標として定めています。このような形で、施策のすべてについて、進捗管理する仕組みになっています。

さらに事業の進捗管理についてですが、これは参考に資料 5 をご覧ください。先ほどの戦略計画の 48 ページの一番下になりますが、(2) に海外展開支援と集積による地域企業活性化という項目がございまして、アとして海外の活力を取り込むビジネス展開支援があって、その下に海外ビジネス展開支援事業と記載があります。この海外ビジネス展開支援事業の成果をまとめたものが、この事業シートです。総合戦略に位置付けられている事業のシートだけを抽出しても、相当な分量となりますので、今回は例として 1 シートのみ添付しています。

6 今後のスケジュールについて

次に、今後の皆様のスケジュールをご説明します。資料 6 をご覧ください。浜松市“やらまいか”総合戦略に係る検証・見直しのスケジュールです。総合戦略については、私たち行政だけということではなくて、皆さんにお願いしているこの推進会議、それから議会にも報告をし、審議をしていただきます。このため、有識者会議、庁内会議、市議会の 3 つの機関にまとめて、スケジュールを記載しています。有識者会議については、6 月の第 1 回の記載が本日を示しています。

今後、9 月に第 2 回を予定しています。ここで先ほどの戦略計画での評価を行ったものを、お示しをさせていただきながら、検証作業をしていただくと同時に、次年度の施策について、ご意見を伺っていく機会を設けたいと考えています。

そして 3 回目、3 月になりますが、3 月には総合戦略の改定の内容についてと記載がありますが、来年度、平成 29 年度の当初予算が議決されるタイミングですので、それに合わせ、総合戦略の改定内容等についてご説明をさせていただきながら、意見交換をさせていただくスケジュールを想定しています。

説明は以上です。

浜松市企画調整部長 山名

ただいま、総合戦略ですとか、戦略計画ですとか、似たような文言が複数出てまいりました。複雑で分かりにくいと思いますが、ご説明させていただきましたとおり、この会議では、次回の会議で総合戦略の進捗について検証を行うということで、その時に基本目標達成のための次年度の施策など、ご意見をいただきます。したがって、第 2 回目以降が、会議の目的の本来の内容となっています。

ただいま説明させていただきました進め方などについて、あるいはこの資料の内容につきまして、ご質問・ご意見等はございますか。よろしいでしょうか。

7 意見交換（自己紹介）

浜松市企画調整部長 山名

それでは、次に進めさせていただきたいと思います。次第の 7、意見交換に入ります。本日は初回の会議ですので、自己紹介を兼ねまして、皆様それぞれのお立場から、浜松の活性化など、その方向性について、ご意見、お考えなどをお話しただければと思っています。

商工会議所の岡部副会頭から、順番に時計回りで、皆様に自己紹介とご意見をお願いできたらと思います。1、2 分でということで、よろしくお願いをいたします。市長まで一回りいたしましたら、委員の皆様相互で意見交換ができる時間を設けたいと思っていますので、よろしくお願います。

岡部比呂男委員

浜松商工会議所の副会頭をしています岡部と申します。よろしくお願いをいたします。

商工会議所という立場で、いの一番に挙がっている産業の活性化というところを、一部担っているわけですが、一方で浜松市の行政諮問会議のメンバーにもなっていて、そちらはどちらかと言うと、効率的な行政経営をどうやってやるのかという意味で考えるチームで、言ってみれば、市としてのアクセルをどうやって踏むのかというのと、ブレーキをどうやってかけるのかというのと、両方の天秤だと思っています。

この総合戦略はすごくよくできていると思うのですが、原資はもちろん限られているので、これだけのことを全部同じスピードでやろうとすると、たぶん全体が鈍ってしまうと思うので、打って出るところ、あるいは打って出る順番と、実施したいけれども我慢するところというのを決めた上で、それを市民と広く共有すると言いますか、そういう考え方でやらないと、人口はどのみち減るので、その減り方を緩くしようというのかもしれませんが、減るという前提で言えば、特に生産年齢人口が減って、総体的に年金で生活をする人が増えるということは間違いないと思うので、そのアクセルとブレーキの両方の踏み加減がすごく大事だと思っているので、したがって、この会議も両面で見ることがあるかなと思っていますので、私はそういう立場でいきたいと思っています。

藤本和彦委員

おはようございます。ジェットロ浜松の藤本と申します。ジェットロ、日本貿易振興機構という名前です。2014年の4月にこの浜松に設立された新しい事務所です。設置の経緯としては、市長をはじめ産業界の皆様から、海外ビジネスを活用して地元の利益を増やしたいという要望をいただいたからです。利益を増やすと何が起るかというと雇用が増え、そして皆様の企業活動が増えていきます。そのお手伝いをするために参りました。今回はこういった総合戦略の中で、少しでも自ら動いて市民として活動できればと思います。市民になって2年3か月ですけれども、どうぞよろしく申し上げます。

増田洋介委員

公益財団法人浜松地域イノベーション推進機構という大変長い名前ですけれども、県と市から基金を受けまして、主に市の委託事業ということで、地元のものづくりの中小企業さんの支援という業務を担っております。

今日のこの総合戦略の中では、われわれの仕事に関係してくるところと言いますと、基本目標I-1の、先ほど話がありました、地元産業力の強化の中の新産業の創出、あるいは新規創業、こういったところが、われわれの業務に非常に関係してくることだと思っています。

今までそういった業務をやってきたわけですけれども、今までやってきたやり方がいいのかどうか見直しをしながら、浜松の市の総合戦略に、どうお役に立てるか考えていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

村松修委員

遠州鉄道の村松でございます。私自身は遠州鉄道で運輸の経験が長いですが、現在はグループ経営推進本部というところを担当していますので、遠鉄グループ全体の観点の中で、いろいろ提言させていただければなというふうに思っております。

そんな中で、1つ個人的に感じているところにもなるのですが、資料の中に、若い女性が特に戻って来ないということがございますけれども、若い女性が戻ってきたいと思うような産業を育成しないといけないのではないかというふうに感じるところです。

私どもは採用をやっています、30代、40代の浜松出身の女性が、旦那さんを連れて戻って来るといった例が結構ありまして、いわゆるマスオさん状態で戻ってくるわけですが、すごく優秀な、浜松出身でない男性の方が、こちらへ戻ってくるという、それだけ浜松に魅力があるところだということに感じていますけれども、そんなまちになるといいかなと感じております。以上です。

村松尋代委員

株式会社村松商店の村松と申します。今日まで浜松ロータリークラブの会長ですが、委員任期中のあと何年かはもう違いますので、会社の名前で参加させていただいています。

会社はライフライン関係の仕事をしておりまして、大事なところをそういった面でも感じていますし、この世の中、男性と女性しかいませんので、どうやって一緒になってうまく、一人ひとりの特性を活かして、進めていければいいかなと思いました。

それから、理想とする家族像というのは何なのかというのを考えながら進めていけば、人口は増えると私はそう思っておりますので、今後ともまた、私も市のほうではいろいろな委員も重ねてやってまいりましたので、そんな視点から、一市民としていろいろな意見を出させたいと思います。よろしく願いいたします。

山田万祐子委員

株式会社ホト・アグリの山田と申します。よろしく願いいたします。

私は北区で農業をやっている、子育て中のママを雇って、基本午前中のみで仕事をしていまして、そこに知的障がい者の方が来て農業をやっています。女性というのは、時間が決められた中で能力を発揮しなければいけないということがあって、本当にすごい力が出るもので、女性の魅力を私は今感じながら、さらにその女性が知的障がいの方に指導するというのも、すごく相性がいいなということで、農業というものが魅力的な産業として、たぶん浜松もこれからうまく合っているのではないかと感じています。

まだ私は若者だと思っております、若者がチャレンジできるまちということで、これからもっと活躍していきたいと思っておりますし、子育ても、今子どもを3人育てながらやっていますので、そういう意味で意見もいろいろ言えると思っております。

小さい会社ですけど、ベンチャーがいくら頑張っても、個で頑張っているということしかないですけど、それが中小企業だったり大企業に対して、魅力あることを展開していけば、大企業や中小企業が、それをうちに取り入れたいとか、そういう形になってくると、産業というのはもっと振興していくと思っておりますので、それをまずどういう形で進めるかとか、そういうことも実践しながらやっていきたいと思っております。若者ということと、子育てをしているということで、今後どうぞよろしく願いいたします。

田島忠志委員

ハローワーク浜松の田島と申します。よろしく願いいたします。

私どものほうのハローワークとすれば、この戦略の中では労働供給力の開拓ということで、就職支援ということになります。数値的なものでいえば、求人がだいぶ増加傾向で推移してきています。ということは、地元企業さんが、だいぶ元気になってきていただいているかなということを感じております。

今後におきましても、地元企業のほうで元気になっていただけて魅力を発信していただければ、私どものほうからは、労働力としての就職支援、就労支援ということでお役に立

てるかなと思っております。よろしくお願いいたします。

根本敏行委員

地元の公立大学法人静岡文化芸術大学の根本でございます。よろしくお願いいたします。私が大学で研究したり教えたりしていることをということでは、この中の項目でいきますと、創造都市というあたりで、簡単にコメントをしたいと思います。

たくさんの施策が整理整頓されて並んでいて、確かに誰がこれを担うのかということ、きちんと分けていかなければいけないのですが、その一方で、冒頭、岡部委員からもありましたように、これを全部一斉に全面展開ということでもなくて、そういう目で見ると、この創造都市政策というのが、現在はこのⅢ-2の「にぎわい」で、多様な音楽に触れる機会の創出というのを、代表例で挙げていただいているのですけれども、これはやりようによって、もっともっとほかの施策と連携した政策として、つまり3つ、4つをばらばらにやるのではなく、創造都市という切り口で、複数の目標が前へ進むという進め方もできるのではないかなと思っています。

そういう意味では、一見、創造都市というと、文化芸術を振興することだと思われることが多くて、そうするといろんな施策の中で、これは文化施策ですよというふうに、閉じ込められてしまう恐れがあるのですが、実はもっと広がりのある話で、文化芸術を手段として使って、地域を豊かにしたり、あるいは社会参加を促したりというのが創造都市だと考えています。

たまたま本市は、ユネスコネットワークで音楽分野の連携をしました。それから世界のトップのグローバル楽器メーカーもありますので、音楽が前面に出ていますが、これは決して音楽だけを行う政策だというふうには思わないほうがいいと思います。

そういう意味では、1つ目の柱のイノベーションとか、つまりクリエイティブ、創造的って何かというと、誰もやらなかったことをやってみる。誰もできなかったことをやるということが創造ということなので、まさに「やらまいか」というのは創造そのものです。音楽をもちろん柱としながらも、マイクロエレクトロニクスとか、いろんなものが、誰もやらなかったことにチャレンジすることにつながると思います。

もう1つは、いろんな多文化共生で、障がい者、高齢者、外国人、いろんな人が社会参加をして、能力を発揮する手段が文化芸術は大事だと思いますので、その面でも「創造都市」というのは使えると思います。

最後に一点、「人材」という面で最近、市とも調査を行って、非常に面白いことが見えてきたのが、浜松はグローバル企業がたくさん立地しています。この企業の中には世界トップクラスのアーティストとか、クリエイターとかエンジニアが、非常に頻繁に浜松に来て、コラボレーションをしています。ところが、これが企業の外には全然出てこないです。

あるいは統計で、アーティストの数が少ないということ、政令指定都市の中でよく浜松は言われるのですが、実は交流人口としてのプロはたくさん浜松にいて、みんな企業の

中で活躍しています。ですから、全国の有名な文系の大学を出た卒業生が、グローバル企業に就職して、退職した後また元に戻ってしまったりします。なので、このトップクラスのクリエイティブ人材が、頻繁にこの浜松で活躍しているのを、何とかして広がりをつけてもっともっと、自分の就職している中だけでなく、社会の中で能力を発揮できるようにできないかな。それがこの創造都市政策につながるというのを思います。

杉田光秀委員

静岡銀行の杉田でございます。所属は西部カンパニーということで、大井川から大阪までを所管にしております。現在、約 70 拠点の営業を見ているところでございます。

当行の場合は東京から大阪までということで、地方銀行でありますけれども、それなりに広がりを持っています。それと地方創生という観点から言いますと、静岡県は 35 市町すべてに関係を持っております。地方創生部という部を、去年の 7 月に設立をいたしまして、ただいまいろいろところでご提案、ご提言等々をしているのが現状でございます。

浜松に支店を置きますと、やはり浜松というのはご存じのとおり、これだけの企業が集積をして、あと地勢的にも非常に恵まれている。市の土地の広さ、それから工業団地等々に対する取り組みというの、非常に積極的であるように思います。

また、大学ですね。教育機関もそれこそ芸術から医療、工学、その他もろもろ、この地で必要な技術は、教育機関としてそろっているのは正直なところで、これだけのインフラがあるところというのは、正直言いますと、県内でも少ない状況です。

そういう意味で、浜松がこれから地方経済、地方都市として生き残って、発展して行く材料は十分にそろっていると、私のほうは考えています。

そんな中で、金融機関として、やはり金融・経済・産業というところをしっかりとカバーしていきたいというのが、私どもの意向でございます。金融というのは、とにかくお金を貸して預かってというところがメインというふうにお思いになるかもしれませんが、最近では、それだけでは金融機関は成り立ちませんから、特に産業でいけば創業で始まって、企業の支援、事業継承ということで、その地の企業が永続していく手段・方策のところを、しっかりとコンサルしていくというところも、大きな仕事の流れになっているのが正直なところでございます。

われわれの機関として、金融だけでなく経済研究所というシンクタンクから、経営コンサルというリードをするところ、そして海外については、30 名程度の人間が海外に出ておまして、皆様の企業等々が海外へ出るときに支援をさせていただく。また、この会で海外の情報が知りたいというところでは、当然ジェトロさんなんかと海外でも提携をしておりますので、いろいろな情報提供ができるのであらうと思っております。

いずれにしても、これはお願いですが、会議で、2 回、3 回これからも会議があるでしょうけども、その中で、定数的な進捗をしっかりと示しをいただいて、要するに何がどのように進んで、どのような成果を上げているのか。またそれに対して PDCA をどう回し

て、実行があるものを実現していくというような格好でやっていきたいと思っております。ものですから、そのところはぜひ、依頼事項ということでお願いしたいと思っております。以上です。

高橋正典委員

浜松信用金庫の高橋でございます。信用金庫と言いますと地域が限定されておりますので、まさにこの浜松とともに歩むということで、頑張っているところであります。

浜松は気候が非常によくて、東名、第二東名、新幹線の駅と非常に交通の便に恵まれております。それからスズキ、ヤマハ、ホンダの発祥の地であることから、製造業の印象が非常に強いと思っておりますけれども、農林水産業、これも自信を持てる地域であると私は感じております。

また観光産業についても、浜名湖、家康、直虎、これをキーワードとして、人を呼び込む環境は非常に整っていると思っておりますので、地元の金融機関としては、浜松市、大学、そして産業支援機関と地位の企業との連携を強化して、金融機関ですけれども、それ以外のコンサルタント機能、そして産官学と企業をつなぐコーディネート機能、それからプロデュース機能、これを活かして地域振興に取り組んでいきたいと考えております。

また、行政の要望としましては、合計特殊出生率が 1.84、将来的には 2.07 と掲げている以上は、子どもを多く生めば生むほど有利な制度とする必要があると思っております。

博報堂さんのアンケート調査を見たことがありますが、女性で 2 人以上の子どもを持ちたいと思っている方が、確か 80%近くいるということですが、ただし壁があるからそうならないというところで、これを見ても、そういう施策がいっぱい書いてあると思っております。

世界を見てみますと、少子化対策に成功したフランスの例も参考にして、2 人目あるいは 3 人目以上の子どもに対して、実現的ではないかもしれませんが、例えばフランスなんかだと、手当、減税あるいは無料化とか、とにかく多く生めば、2 人目、3 人目は非常に子育てがしやすいよという環境をつくってくれば、これも実現できるかなと思っておりますので、信用金庫でありながら、こういうものにも一緒に、地域の産業と個人のお客さんとともに、発展を目指して行きたいと思っております。以上です。

清水位知子委員

私は再就職、転職などのサポートを日々なりわいとしております。清水位知子と申します。どうぞよろしくお願いたします。自己紹介も兼ねまして、浜松の女性に関して感じていることを 2 つご紹介したいと思っております。

実は浜松の女性と触れ合う中で思っていることは、弱くなくて、すごいガッツのある人が多いかなと思っております。1 つは、文芸大を主席で卒業された方を、企業の研修の関係でお目にかかる機会がありました。彼女は小学生のときに浜松へ、ブラジルからお母さん

と 2 人でやってきて、日本語を覚えて、有名企業に入社しました。その時に聞いた話ですけども、何でもここまでガッツが出たと思うかと聞いたら、「浜松の風だと思う」とおっしゃって、向かい風に向かって通学していたときに、なにくそと思ったという話がすごく印象的だったので、土地柄ガッツがある女性が育ちやすいのかなというのが 1 つです。

もう 1 つが、実は 40 代、50 代の女性の方とお話をする機会が非常に多いのですが、2 パターンに分かれていまして、1 つは主人が自営で起業しましたということで、「別に家に来てくれればいいよ、僕のサポートをしてくれればいいよ」と言われるそうなのですが、やはり何かあったときに主人の支えになりたいので、働きに出たいのでどうしたらいいかというご相談と、もう 1 つは、ご主人が定年を迎えた先を見据えていて、私が今度主人を支えるわという方が、結構いらっしゃるものですから、そういうガッツがある女性を支えるサポートというのを、考えてみるといいところがあるのかなと。直虎と絡めてみても面白いのかなと思っています。以上です。よろしくお願いします。

林寛子委員

中日新聞の林です。私はずっと新聞記者をやっていますが、35 歳のときに子どもを産みました。その妊娠・出産の経験をとおして、本当にこの国は子を産み、子育てしにくいというふうに感じたことが多々あります。それで会社の人に勧められて「子産み子育てホンネ録」という妊娠・出産体験記を 30 回くらい新聞に連載をしていました。

非常に私が書いた新聞記事の中では、もっとも反響を呼んで、たくさんの女性の方から「私も同じだった」というようなお手紙をいただきました。というのも、結局それまで新聞に、あまり子どもの妊娠・出産経験のようなことが、紙面に出てくるのがなかったと思います。それですごく新鮮な感じもあって反響を呼んだのかなと思っています。

子育てのしにくさと大変さと、また楽しさも入ったので、ほんとにこういう子育てって楽しいよねというような共感の反響もありました。

私は会社では初めて、育児休暇を 1 年取りまして、その後、現在は中日新聞社の中では、非常に子育ての制度が充実して、今では新聞社の中では、育休が 3 年も取れるというくらいになっています。子ども産みながら、育休を取りながら仕事をしているというケースが増えてきています。会社の中でもワーク・ライフ・バランス、子どもを産み育てながら仕事ができるということが出てきたということは、少しずつ改善してきているということかなと思います。それで私のそういう経験からしても、この浜松市の切れ目のない支援をしていくというのは、すごく前向きで素晴らしいなと思います。

ただ最近、私の浜松の知り合いの方が、こんなことを言っていました。その方はお嬢さんがいるのですが、当然、浜松で育って結婚したのですが、金沢で所帯を持って、子どもさんが 3 人おり、金沢で家を建てました。金沢はすごく子育てに手厚いまちなので、金沢に家を建てる決意をしたと言うことでした。それがちょっとショックというか、どこがどうなのか、私も具体的には分かりませんが、働きながら子どもを 3 人育てているお母さん

なのですが、ちょっと残念な感じがいたしました。

たぶんこれからますます若いお母さんたちは、いろんな都市やまちや、どこが子育てに手厚いかということ比べながら、どこに住むかということを決めていくのではないかなと思います。ですので、浜松も他都市と比べて、ここがすごく進んでいるとか、手厚いというようなアピールできるところを、打ち出していくといいと思います。

私は浜松で暮らして 4 年ですけれども、気候も人情も温かくて、すごくいいまちだと思うのですが、子育てしやすいところというのを前面にもっとアピールすれば、出生率を上げていくことも夢ではないと思うので、楽しいまちだなということを、もっと押し出してもいいと思いました。

今日、このパンフレットを読んで、すごく楽しいなと思って、子育てを楽しんでいる人の姿が、もっといろんな人に見えるようになると、浜松って子育てが楽しいまちだ。こういうものを、もっとどんどんつくっていったらいいと思いましたし、子ども公園みたいなのもあちこちにつくって、子育て中のお母さんたちが交流できる場をつくれば、浜松には楽しい子ども公園があるらしいよといったうわさが広まってくると、いいのかなと思いました。

この“やらまいか”総合戦略推進会議がとても私としても楽しみに参加させていただいておりますので、期待したいと思っております。よろしく願いいたします。

石田伸吾委員

こんにちは。静岡新聞静岡放送の石田です。昨年 6 月 7 日に石破大臣が浜松へ来てご講演をされています。その時にこのメンバーは「産・官・学・金・労・言」これで構成をしてやっていました。

その中で、この会議が、市民がどこまで本当に真剣に考えられているのか。市が、行政が、やってくれるからいいということではないと思います。それをわれわれが伝えていくべきだし、それをまた、われわれもいろんなところで勉強をしていって市民に伝える。またこの場でフィードバックするというのが、私たちの役割かなと思っています。

また、地方創生ということで、新しく何かつくっていきましょうということですが、ただ浜松にはもともと地場産業もあるし、いろんないいところもあるし、そういったところを再生していくということも、必要だろうなと思っています。

それと国からこういうお金が出る。何かやれと言われて、では実施しようと言ってやるのはちょっと、これはどこでもやっている話なので、やはり浜松オリジナル、浜松らしきのあるものを、つくっていかねばいけないかなと思っています。

それとこういった補助金がなくなると、もう終わり。かつても 1 億円をあげます。何かやりなさいと言われると、金塊買ったり、金のお風呂をつくったり、キャバレーつくったり、そんな市がありました。それはもうそれで終わりですね。そこから何も発展していない。やはりこれは発展させておくべきものであって、会社で言うと資本金、それを基に

ぐるぐる回って行く。何回も回転させて、雇用もそうだし、企業もそうだし、子どもたちの明るい未来をつくっていくということになると思うので、一過性のもではなく、30年かけてやるということなので、それが成果をもらって、次のものにつなげていくと。そこで使ってしまった消費しなくなって、お金がなくなりました。またゼロからですということに、ならないような形にできればいいのかなと思います。私たちはそういったものを常に伝えていく役割を果たしますので、よろしくお願いします。

山本敏博委員

聖隷の山本でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

“やらまいか”総合戦略の内容を見て、これ聖隷もうちょっと頑張れというような印象を受けておりましたけれども、ただ、この政策の流れとか内容は、先ほど岡部副会頭が話されたように、これだけの項目を全部やり得るのか、もう少しプライオリティを決めていかないと、ちょっと混乱するなというふうに感じたところでございます。大変に納得感のある内容であると思っております。

私どもグループでは1万3,000人ぐらいこの浜松に住んでおまして、スズキ自動車、ヤマハさんに次いで、第3番目で、静岡県で3番目のようですが、人の上に立ってなくて、皆さんの安心・安全を守るものですから、そんなのあまり自慢をする必要はないと思っておりますが、そんなことで、雇用は毎年1,200人、聖隷福祉事業団だけで採っておりますし、出産・子育てについても、たぶん浜松の40%を超えた、医療関係でも救急関係は43%ぐらいは、私どもの両病院でやらせていただいています。そういう点では、健康寿命とか切れ目のない福祉医療サービスとか、災害対策、ここに書いてあることにまさしく、直接関わっている事業体であることをご承知いただきたいと思っております。

私は浜松でいつも、「やらまいか」ということで、みんなも乗ってくるのですが、現実には医療・福祉・介護、水と空気とか電気も含めて、少しはお金を払いますが、何かここに住んでいる喜びとかいろいろは、あまり市民の方は認識、日本人は特にそうですが、この「やらまいか」の方々は、そういう認識がないのではないかと。もう少し行政のほうで、そういうことで、ここの浜松市はどれだけ住みやすいのか、安心できるのか、災害対策もしっかりしているというようなことを、もう少しアピールしていただくと、よそからも来やすくなるのではないかと。とにかく若い女性が、ただここに住んでいるという点では、もう少し住む楽しさとか、若い女性が結婚しないと分娩もできませんし、出産もないですし、男性のほうもここに住むことがなかなか難しいということもありますので、商工会議所のほうの宣伝をしますと、出会いの会をやりまして、結婚をされたとか、分娩をされた方もいます。婚活を2回、両方で400人、200人ずつでやっておりますので、そんなこともぜひ皆さんで、宣伝もしていただきたいと思っております。

繰り返しになりますが、行政とかいろいろに全部お願いするのではなくて、市民の皆さんが、やはり自分の心の自覚を、自分のことは自分である程度やるという自覚が必要です。

それから共同体と言いますか、地域で皆さんが協力し合ってやる。この浜松はわっと集まるのですが、それぞれの人がみんなで何とか自分のところをしようよというのは、少し足りないような、私は浜松ではないので言うわけではありませんが、もう 50 年住んでいますから浜松人ですけれども、ぜひそんなことで、この会を通じて、また行政を通じて、みんなにアピールする、教育をしっかりといただきたいと。いろんなハードをつくるのも大事ですが、そっちのほうも大事だというふうに思っていますし、女性にも多くのどれだけ、子どもを産んでも、育児をやっている間キャリアの隙間ができて、後で復帰できるような、こういうプログラムというのを、ぜひ一緒に頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

梅田武宏委員

こんにちは。私は浜松市自治会連合会から来ました、今度総務委員長を務めます梅田でございます。よろしくお願いいたします。

私は皆さまにお願いしたいことがあるんです。浜松市にはこれだけのものがあるのですから、「居・職・充（いしょくじゅう）」をひとつ宣伝してほしいんです。「居」は居ごちがいい、「職」は職場の職です。「充」は生活が充実するの充です。これをやっていたら、浜松市も人口が増えるのではないかと、若者が増えるのではないかなと私は思っています。こういう言葉をひとつ、戦略の中に取り入れていただきたいと思っております。

居心地がいい、職場がいい、充実した生活ができる。「居・職・充」です。昔の衣食住とは違います。これからはこういう言葉で“やまいか”戦略をやっていただきたいと思っております。そうすれば浜松市も、もっともっと若者が増えるし、子どもも増えるし、職場の内容もよくなるかと思っております。今はこれが浜松市にはないと思っております。もっと「居・職・充」をこの言葉でまとめていただきたいと思っております。昔の衣食住は、食べる、住む、居心地がいいという形ですが、これからは居心地がいい、職場がいいから充実した生活ができるというような形でやっていたら、人口も減らないし、浜松市ももっと活気のある浜松市になると思っております。自治会ではこれを、皆さんに薦めるようにしておりますので、ひとつよろしくお願いいたします。以上です。

鈴木恵子委員

認定 NPO 法人、魅惑的倶楽部と書いて、エキゾチッククラブと読みます。理事長の鈴木恵子です。私たちは HIV ですとか知的障害者、それから LGBT といった、どちらかと言うとマイノリティ、少数の方たちに関わる活動をしてきました。

5、6 年前からいろいろな福祉ですとか、環境ですとか、そういった分野に関わってきた関係もあると思うのですが、中間支援の NPO として活動を進めています。浜松市の市民協働センターの指定管理をさせていただいたり、県西部のふじのくに西部 NPO 活動センターの委託を受けて、NPO の方たち、自治会の方たちを含め、受けたりということをしている

のですが、その中で一番感じているのは、NPO の年齢が高齢化しているという大変です。若い人たちが入ってこない。後継者がなかなか生まれないということがあります。

幸い私たちの NPO には、文芸大を卒業された方や、静大を卒業された方がそのまま市民活動に関わりたいということで活動に参加してくれてフォローしているのですが、なかなかそれが継続できないですね。浜松に住んでいた方も、ほかの地区へ、ほかの都市へ行ってしまうことが多いので、それがどういうことかなと考えていく中で、中学生や高校生 のときに、どれだけいい大人になって、自分たちの地域が好きになったかということが、とても大事なのかなということを思いました。いくつかの基本目標がここに掲げられているのですが、どれをとっても人づくりというか、キーワードは人なのかなということ をすごく感じます。

そういったところを、自分が関わってきたいろいろな分野ですとか、NPO の視点からこちらで、前向きにできればいいかなと思っています。私事ですけれども、3月に孫が生まれて、出生率には少し貢献できたかなと思うのですが、その孫がずっとこの浜松に住んで、浜松をいいまちだなと感じられるようになるのは、私たちの世代が頑張らなければいけないのかなというのを痛感しています。よろしく願いいたします。

原田博子委員

NPO 法人はままつ子育てネットワークの原田と申します。今仮認定中ですので、皆様の応援をぜひお願いしたいところがございますが、私たちは子育て中の母を、当時は子育て中の母親でしたが、10年間 NPO をやっていたのですが、だんだん上の世代になってきて、世代交代しなければならないような時期にきているのですが、今は浜松市で市民協働として、子育て中の情報サイトを運営したり、防災の視点で活動したり、それからママたちの再就職支援というふうな視点、いろんな視点を持って、浜松市が住みよいまちになってくれることを願いながら活動をしています。

浜松市の活性化について自己紹介をというお話でしたので、スタッフに何を話したらいいのということをついたら、これを渡してくれました。ここに全部私たちの活動を集約しています。

以前、市長とのお話のときにもさせていただいたのですが、浜松市は出世の街、でも、世の中に生まれ出づる、それから世界に出て行くには、子どもが生まれなければならないよねというところで、基盤として私たちは、いろんな分野の方々とともに、活動していけたらいいかなと思っています。

浜松市を子育ての視点でよくよく見ると、次のページを見ていただければと思いますが、浜松ってこんなまちというのを、自分たちでも探してみたのですが、私たちはほとんどが浜松出身ではございません。それで浜松のいいところというのを探してみようということになったときに、いろんな視点で探していったのですが、5人のお子さんを持っているお母さんに、「結構産んでもすごく楽しいよ」というお話をさせていただいたときに、すごく面白

かったです。

ほんとに子育ての時代を全力で応援するまちということで、ぜひとも実現していただきたいというか、できればいいなと思っていますが、やはり自分たちが楽しくなければ住みよくない、自分たちは楽しい、そういうふうな感じでいきたいと思っています。

どこの自治体も、今はほんとに「子育てしやすいまち」というのを掲げてらっしゃるところが多いのですが、サービス合戦になってしまったら、浜松も、もうおしまい。お金の問題だけではない。ほんとに優しくされたとか、楽しかったっていう子ども時代の経験というのはすごく残ると思うので、ぜひともそこら辺をうまく、こういう中で推進させて行くことができれば、ほんとに本望だなと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

前田剛志委員

皆さん、こんにちは。NPO 法人遠州屋伝助の前田と申します。冒頭に皆さんにお話したいのは、お手元にお配りしてある資料ですけれども、私の名前は前田剛志というのですが、一番後ろに「志」という字が抜けております。こちらでは訂正していただいているのですが、後ろに「志」が付きますので、一応志を持ってきました。志がありますので、よろしくお願いいたします。

私は普段、天竜区の中山間地で林業をしております。普段この時間であれば、山の中に入って木を切っているというのが日常ですけれども、中山間地は浜松市に先駆けて先進的な地域ですので、すでに人口の減少が進んでいます。減少は進んでいるのですが、地域の方々それぞれでは不幸かという、そういうことはないのです。地域のお年寄りに話を聞いても、満足度というのは、この地域はそのまま時代の流れに流されて、消えていくのは仕方がないという諦めはあるのですが、住んでいるの方々というのは、決して不幸ではないのです。

周りで中山間地のにぎわいを取り戻すだとか、人口を増やそうという動きはあるのですが、地域の方々本当にそれを望んでいるのかというところを確認して、周りの人間が個々に動けることが重要ではないかと思っています。

私が関わっている林業に関してですけれども、実は私もそうなのですが、出身は千葉です。外から来た人間が今、浜松のそういった産業を支えているということがあります。そこには浜松市がこれからの人口減少を緩やかにするにあたって、たぶん大きなヒントがあるはずだと思っています。

私も含めて、そういった人間がどんどん入って来ることによって、その人間は外からの視点を持って入って来ますので、地域の人たちが気付かない、浜松はこんなところがいいじゃないか、この地域はこういうところがいいじゃないかという魅力に対して、積極的に気付くことができます。そういうことを発信していけば、これからの浜松市の人口減少を考えるにあたって、その中に大きなヒントが含まれているのではないかと思います。

私は未来ビジョンの策定にも関わらせていただいたのですが、この中で基本目標、

“やらまいか”総合戦略の基本目標も、先ほど原田委員がおっしゃったように、おそらくソフトな部分、産業とか以外の、住む人間の満足度や幸福度というような、なかなか数値目標にできにくい部分ですけれども、そこら辺で積極的に意見を言わせていただければと思います。

せっかくこれだけそうそうたるメンバーが集まっていらっしゃるので、今私に関わっている林業、中山間地域というのは、確かに苦境には立たされているということが言えると思うのですが、この会議の外でも、自分なりにこういうことをしたらどうかとか、こういうことをすれば面白いのではないかとということで、集まった方々とこの場だけではなく外でも何かしらつながって、浜松市の未来に対して、何かしらプラスのものを生み出していただければ本望だと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

村田亜希子委員

浜松市の学童保育を考える会の村田と申します。前田さんと根本先生と一緒に、私も総合計画の策定に関わらせていただきました。総合計画策定のちょうど終わりがけに、おなかに新しい命が宿りまして、ただいまこの新しい命は健康に生まれて、保育園で慣らし保育中という経過をたどっております。とても縁を感じる会議になっております。

私自身は0歳11か月の次女と、上に4歳の長女がいます。現在育児休暇中で、浜松市の企業で働いています。学童保育を考える会のほうは、当事者団体の社会活動として活動しております。

私自身が、今保活が注目を集めておりますけれども、保育園を探すのにとっても苦労したり、悲しい思いをしたりという経験から、次に続く小学校の放課後についても、やはり興味がありまして、というのも、私は少しだけですが、小学校の教諭をしていたことがありまして、子どもたちの育ちを間近で見っていたものですから、小学校の子どもたちの放課後というのに、非常に興味がありました。

その中で、現在、お母さん方に情報を提供するという活動を中心に行っています。実際にお母さん方と触れ合う時間がありますと、ガッツがある女性が多く、仕事をしながら、家事をしながら、育児をしながら、で、私の話を聞いて、「それであれば私も何か協力をしたい」ということで、サポートをしてくださる方が多く、現状は働きやすいかと言われたら、「はい」とは言えないです。子育てしやすいかと言われたら、「はい」と言えないところもあるのですけれど、ではどうするかということで、私たち母親は現状を改善していき、それを未来の子どもたちにつなげていきたいという希望は持って、お母さんたちの中にあるのだなということを感じています。

そのお母さんたちの思いをきちんと集約して表に出して、例えば政策に結び付けることができれば、今ある課題が、例えば社会活動がビジネスにつながるということも思えますし、そのマイナスの要素が、もしかしたら新しい産業を生む機会になるかもしれないというのをすごく感じながら、日々活動しております。

私は社会人としてまだまだ経験不足なので、こういう場所に出て来るのはためらうところがあったのですが、やはり当事者の生の声をここでお伝えするというのが責任だと思って、参画させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

中島イルマ雅恵委員

浜松市外国人市民共生審議会の中島です。今期の審議会はブラジル、フィリピン、インドネシア、ベトナム、中国、ペルーの7か国で形成されておまして、そこで外国人のものとか、今後の仕事とか、そういうのを話しております。よく出てくるのが情報の見つけ方、必ずしも情報がないわけではないけれど、届かないという問題が結構あります。それで、ここで子育てに関しても、防災に関しても、みんなのところに届かない情報が、結構あると思います。情報伝達がうまく行けば、外国人もものすごく住みやすいまちになるのではないのでしょうか。

浜松市は母子手帳も翻訳されていて、病院も通訳がいたりして、学校にも通訳がいて、外国人学習支援センターもあったりして、ものすごく住みやすいまちですが、でもそれでも外国人が住まない、参加しないっていう問題があります。自治会に参加しない、地域の行事に参加しない、それはなぜかというと、この前お話しした人は、回覧板を誰も読んでくれない。うちを飛ばして回覧板を回してるっていうことがあって、回覧板も一応回してみましようよ。読めるかもしれない、読めないかもしれない。読めなかったら、たぶん誰かに聞くだらう。これ何て書いてありますかって。聞けなかったら、たぶん友達に聞きます。こういうのがうちに来たけど。今はみんな写真を撮ってフェイスブックで、これ何て書いてあるか誰か教えてください。学校の手紙もそうですし、いろいろフェイスブックとかツイッターとかを通して聞いて、みんなで、こうやって書いてあるよ、明日これを持って行かなきゃいけないって書いてあるよ、何かの書類だよっていうふうに、みんな協力しているから、回覧板を回して、お知らせを回してあげないと、情報が行き届きません。それでたぶん、外国人は日本語ができないだけであって能力はあります。みんなちゃんと仕事へ行行って、家族を養っているのですが、自治会には参加できない。地域の行事も参加できないというようになっているのが、ちょっと残念だと思います。

もっともっと一緒にやれるようになれば、もっともっと外国人も来ます。インターネットを通して、浜松はすごくいいところだよって、たくさん宣伝してもらえばみんな来ます。実際に、ほかの県のほうが子育てしやすいから、そっちへ行こうという動きがちょっとあります。浜松からそっちへ引っ越そうとしている人たちが結構います。そこをちょっと引き止めているところです。浜松もこんなによいよ。子どもが生まれたら、学校に通訳いなくてよいかって、ここで引き止めている人たちもいますので、もっと何か外国人がここにどまるようにしなければいけないのかなと思います。

柴田直緒子委員

浜松学生ボランティアネットワークに所属している柴田直緒子です。よろしくお願ひします。普段は聖隷クリストファー大学の社会福祉学科で3年生をしています。

学生ボランティアネットワークですけれども、2年ほど前に設立された、浜松のボランティアをしている学生たちによるネットワークです。大学間で連携が保てるようにということで行っています。

そこでは、私は「静岡2.0」という団体で、地域のつながりを持つ活動をしています。あとはNPO法人のほうで自然体験活動を子どもたちと一緒にしたりしています。

浜松の活性化について、総合戦略に書いてあったものを見ても、「活性」と言われて、ぱっと浮かぶものが、いちばんにこれというものが、あまり浮かびません。仲間と話をすると、教科書どおりの内容は話題になります。外国人が多いとか、音楽のまち、製造業、農林水産業、あとは海もあるし、山もある、交通の便も楽、バスもちゃんと通っているということは思い浮かびます。ショックだったのは、私は生まれも育ちも浜松ですけども、何で浜松に残るかって言われたことがありました。私の中では別に、魅力がないっていうことは、まったくないし、住むには安心していけるまちだし、きれいなまちだと思っています。

地域のつながりを言うと、少ないかなというふうに思います。学生のボランティアも、私もボランティアネットワークのことを聞くまで、ほかの人がどんなことをやっているのかというのを、あまり知る機会がなくて、中島委員が言われていたように、情報を発信しても、なかなかいろんなところ、社会福祉とか、いろんなところに届かないってことが、結構多いかなと考えました。ボランティアネットワークができたのもたった2年前ですし、学生はもっといろんなところと連携というか、いろんなところともっと関わったらいいのになというふうに思っています。それが学生同士ということも言えるし、学生といろんな企業とのつながりでもいいと思います。いずれ就職するのであれば、積極的に関わっていったらいいのにと感じています。

ボランティアネットワークも、結構外からの人のほうが多いです。大阪出身とか、牧之原ですとか、県内だけでも浜松出身で浜松育ちでという人が、思ったより少ないなと思って、外から来る人は外からの視点で動いていることが多い気がして、中からの視点を、もうちょっと持つ人が増えたらなというふうに思います。

育ってきたからこそ分かることもあるだろうし、育ってきたからこそ、もしかして外に出て行くかもしれないですけど、育ったからこそその魅力を、何か見つけていけたらなと思っています。「何で浜松に」って言われるような風潮がなくなったら、いずれなくなったらうれしいなと思います。

大学生で未熟なところはいっぱいあると思いますが、思ったことを率直に述べられるように頑張っていきたいと思っています。よろしくお願ひします。

浜松市長

皆様からさまざまな課題認識、ご提言をいただいたのではないかと考えています。何人かの委員から、これからのこの状況の中で、優先順位をいかに付けていくかというご指摘をいただきました。プライオリティをどのように付けていくかが大事だというご指摘もありましたけれども、私もそれを痛感しておりまして、今後、税収は決して増えていかない。人口は減っていきますし、低成長時代、安定成長時代に入っていますから、税収も増えていかない。あるいは国からのいろんな支援も、国の状況を考えれば増えていかないの、限られた財源、資源の中で、いかにそれを有効に活用していくか、まさに優先順位をどう付けるかというマネジメントが問われているなど。そこが言ってみれば、首長の最大の仕事ではないかなと考えています。このようなことをしっかりと課題認識して、私自身も市政を運営していきたいと思えます。

もう 1 つ、私が考えているのは、都市間競争あるいは地域間競争が、大変厳しい時代になるということです。地方創生というのはこのようなことだと思います。それぞれの地域が自ら知恵も出し、汗もかき頑張りなさいということでもあります。もちろんわれわれ自身が、さまざま努力をしていくこともありますけれども、より一層国との関わりとか、そういう中で、いかにこの地域に有利に持っていくかと、言ってみれば、合法的にいかにえこひいきをしてもらうかということも、実は大事でありまして、そこはこれからしっかりやっていきたいと思えます。

幸いなことに、政治の世界でも、与野党問わず中枢に私の仲間がたくさんおりますので、当分の間は、どういう政権になっても対応ができますし、私の同世代が役所でも次官級になっておりますので、こうした今まで培ってきたネットワークを最大限に活かして、浜松に合法的にえこひいきをもらう。これも私の大事な仕事だなと思えます。

もう 1 つは、浜松最強の営業マンにならないといけないということです。最近では創業支援に注力しており、例えばこの浜松にどんどん新しいベンチャーなんかが育ってくる、そういう都市にしていかななくてはいけないということで、東京の若手のベンチャー企業創業者ネットワークを広げるなど、戦略的にいろんな人脈形成もしておりますけれども、今後はとにかく私がこの市役所にいても一銭も稼げませんので、浜松最強の営業マンとして、活動をしていきたいと考えています。マネジメントをしっかりしつつ、営業で駆け回って行き、浜松のかじ取りをしていきたいと思えます。どうぞよろしく願います。

企画調整部長 山名

ただいま自己紹介を兼ねてということで、皆様からそれぞれご意見をいただきました。本日の予定ですけれども、皆様お忙しい方ばかりでございますので、正午にはきっちり終了したいと思います。

ここからは、せつかくでございますので、テーマを絞ってはございませんが、先ほど皆様の中からご意見をいただいた話題でも結構ですし、またそれぞれのお立場で、実際に地

方創生ですとか、そうしたことに取り組まれているという事例もあろうかと思えます。そうしたことを含めて、それぞれ意見交換をしていただければと思いますが、いかがでしょうか。どなたかはじめに。

山本敏博委員

人口が減るということは、人を雇うにしても消費も増えないし、企業としてもそれだけ成長していないということになる。なぜ浜松はこれだけ人が減るというふうに考えるか。それとも反省点と対策から考えないと、私は難しいのではないかと思うのですが。

企画調整部長 山名

今ご意見がありましたけれども、どうでしょうか。人口減少の要因についてご意見のある方はいらっしゃいますか。

山本敏博委員

特に女性がなぜ定着しないのか、出産しないのかというのは、傾向が拡大してしまうと思うのですが。

村田亜希子委員

女性の出産適齢期の私が一応、周りの母親仲間の話の中でいくと、産んでいる方は産んでおりまして、私の友人なんかでも、4人出産している方がおりまして、そういう方してみると、「4人産んで当たり前だよ」っていうことを言われるのですが、わが家は2人です。

そこで一番ネックになっているのが、収入と教育費です。どこの文献かちょっと忘れてしまいましたが、子どもが2人以上いる家庭の世帯収入が、400万から500万というデータを見たことがあります。私のプライベートなことをさらけ出して申し訳ないですが、私の主人だけの収入だと、500万というのは難しく、それで一緒に働いて400万、500万という状況なのですが、保育園に行くと、子どものいる過程では3人ぐらいが平均です。そういう家庭はやはり400万、500万のところをクリアできているのかなと、それと私の母や父の世代のように、将来に先行き見通しを持ってないために、仕事を辞めることができない、働かざるを得ないという、とにかく収入を得ることが優先となってしまうのと、自分と同じ教育を子どもに受けさせるだけでは、将来を見越してちょっと不安があると考えます。母や父の世代のようにパソコンがなくて、とにかく伝票を何十人もいて手書きをしていた時代ではなく、今でもそのように何十人もやっていた仕事を、1人のパソコンでできるような、仕事が高度化していますので、きちんとした教育を受けさせなければ、子どもが次、自活をして生きていけないのではないかという不安もあって、教育費のことをすごく考えてしまうので、そうすると、2人は欲しいけど、それ以上は難しいというふうな実

感があります。

企画調整部長 山名

ありがとうございました。

藤本和彦委員

すみません。議論のところで皆さんにご質問したいのですが、今私は公的機関として様々な相談を受けています。皆さんに質問したいのは、海外ビジネスにまったく関係ない人に対しても、積極的に情報提供して、海外ビジネスやってくださいと言うべきなのか、海外ビジネスだけをやりたい人の相談のみを受けるべきなのかということです。

これは何かというと、先ほどの総合戦略の優先順位の話と同じで、量が多いので、優先順位を決めなければいけないのですが、市民の中には、ぜひ一緒にやりたいと思う中で、考えが伝わらないがためにできない方がいたときに、その人たちをどう守るかということと、やりたいという方を守るかというのが、たぶん今の浜松市の中で混在していると思います。

それで、たぶんここにいらっしゃる方は、皆さん主体的に積極的に浜松市のことを考えて、ぜひやろうという思いがあるので、たぶん外部に出たとしても、いろんなところで浜松市いいよって言われると思いますし、私も宣伝で、先週カンボジアの人が来たときに、まったく地方都市としか扱っていないので、私のほうから、認識を改めるように伝えました。ここは日本の中心の都市であり、ここに来られただけありがたいと思いきやというふうに言ったら、急に話が変わって、「浜松市の方が来たらぜひ、カンボジア商工会議所として皆さんをお受けしたい」と、このような話もありました。

つまり、今日はメンバーの方々いらっしゃるのですが、私が一番難しいと思うのは、今回の英国のEU離脱に対して、まったく関係ないという人たちに対しても、いや、皆さん関心を持ってくださいと言うべきなのか、それともそのような方々はそっとしておくのか。だから子育てとして、ボランティアに関わっていない人、子育てに対して関係ないという人や僕もう浜松出るからという人を引き止めていくかということころは、皆さんどういうふうに考えられているのかなというのは、皆さんと協力していければなと思っています。

そこで、先ほどの優先順位なんですけれども、たぶんここに施策を投入するときには、市長のほうから、この委員の中で、ぜひここ、たぶん今共通しているのは、人材育成のところから優先的に、自分で考えて、浜松で起業してやっていこうという人たちを少しでも育てるとのことだと思っています。

これはオリンピックの言葉ですが、「TID (Talent Identification & Development)」、つまり人材を見つけて育成していくというのが、これから2020年に向けて取り入れられる考え方になってくると思います。これをするのか、それともいい人だけなのか、市民全体に広げていくかということころはぜひ、ご相談させていただければなと思っています。

私は全市民を、私は 130 万人というか、管轄エリアとしてですが、全市民が海外と触れるような機会を求めて活動したいと思って、少しでも営業して頑張っているところです。

何を申し上げたいかというと、皆さんどうでしょうかということか、逆の人たちに対してどう説明するかということもぜひ踏まえて、いろんな意見が聞ければと思っております。

企画調整部長 山名

藤本委員から、投げかけと言いますか、いただきましたけれども、いかがでしょうか。

清水位知子委員

ちょっと趣旨から外れるかもしれませんが、実は人口流出でいうと、女性の再就職の支援をしていますと、海外に行きたいという人が多いです。特に女性です。海外で働いてみたい。40 代の方で、ご主人を置いてカンボジアに行ってしまった方がいらっしゃいます。数字をきちんと出していませんが、たぶん去年だけで 500 人ぐらいの方とお目にかかって、その内の 5 人の方が海外へ行かれました。

そうすると、海外志向が強い地域ではあると思っているので、私の意見としては、藤本委員の意見を伺って、みんなに海外のことを知らしめていただきたいということを 1 つ。

あと仕事の関係で、アジアミュージックフェスティバルに、契約先があったものから出展しましたときに、ものすごい数の外国人が来ていて、日本人の方もいらっしゃって、こんなに外国の人と触れ合えて楽しいなみたいなことを、市民の方はおっしゃっていたので、やはり伝えていくことが必要なのではないかと、私は思っています。以上です。

企画調整部長 山名

ほかにいかがですか。

山田万祐子委員

一番上で活躍できる人と、関係ないよって言う人がいると思いますが、その間にたぶん中間層の人が、どっちへ行ったらいいか分からない人もいます。人の心を動かすときというのは、「えっ、この人がこう動いたか」というときに、人の心を動かしたりとか、周りが、それならちょっと乗ってみようかなというところがあったりすると思うので、私は最終的には、全員をこっちに向かせるときには、中間層の人の「えっ、この人が」っていう人を動かすような方法で、何かやっていかないといけないと思います。最初から上の人とか下の人って決めずに、中間層の人たちを動かして、それに対して、「この人が動いたなら私も動いてみよう」という、雰囲気づくりだったり、まちづくり、ここの上と下ではなくて、いかにしてこの真ん中の、中間層に対して投げかけるような、何かの発信だったりとか、こういったものが重要ではないかなと思います。

前田剛志委員

自分の住んでいる地域というのは、浜松市の中心部から遠く離れているので、物理的にも情報的にも届きづらいと考えています。Airbnb (エアービーアンドビー) という、民泊で、外国の方にとって日本で一番人気のある場所というのが、英語もしゃべれないおばあちゃんがいる場所が、非常に人気があるという話を聞きました。

これは、日本という国を味わいたくて、外から来る人という人が多いと思います。その時に、浜松の中で手を挙げた人たちだけが、そこに参加するのではなくて、田舎のおばあさん、中山間地に住んでいる人たちと、その中間、例えば自分たちみたいな人間がいて、それとこちらから来る情報をつなぐことができれば、より深く浜松というまちの魅力を発信できるのではないかと思います。

情報というのは、やはり届きづらいと思いますが、その真ん中に何かしらかませることができれば、多くの人たちに知らしめていただければと自分は思います。

藤本和彦委員

先ほど杉田委員から話があって、私も絶対に、海外進出の成功事例を増やしたいという思いがあります。先ほども柴田委員の話があったとおり、そこは絶対に目指さないといけないです。ただ、それがゆえに企業の現場の方まで成功事例の創出にのみ重視することになると、学生さんがコンコンとノックしたときに、「いや、ごめんね。学生さんだったので、利益にならないので」という雰囲気にならないためには、ぜひこの PDCA サイクル、KPI の達成と、人材育成というか、手を差し伸べている方を助けるということというのは両輪であるということが、総合戦略を実施していく上で、優しさと目標を達成するという両方を、ぜひ持っていなければいけないということを感じます。

目標は重要です。一方、優しさというのも市の中にあって、持ち続けていく必要がないと、柴田委員も先ほど「企業の方と接点がない。だから浜松にいても意味がない」と思う人が増えてしまうかもしれないですけど、いや、そんなことないと。企業の方に触れてみたら、こんないい人がいたじゃないか。私もそういう意味では、浜松に、ここに来られてすごくありがたい経験をさせてもらっているのだから、それを多くの学生、それからいろんなところから来た人、それから海外の人、いろんな人が交わっていければ、浜松に定住したいという方が、私もそうですけど、転勤がなければ住み続けたいのですが、そのような人が増えていくと思います。

山本敏博委員

“やらまいか”総合戦略推進会議の、基本目標のⅠ、Ⅱ、Ⅲがある。これをどのように具体化するかの論議で、末端の話になってしまっていて申し訳ないですが、第 2 回目の会議では検証結果を踏まえて具体的にどの部分を重視するのかを決めれば、おのずと優先順位も決まると考えます。

山名部長

そうです。次回からは自由意見ではなく、テーマを決めて議論いただきます。

山本敏博委員

進捗状況をチェックしていくとくことですね。

商工会議所のほうも、各企業が育休とか、その後の復帰をどうするかとかという、まだまだ真剣さが足りないなので、岡部委員と一緒に協力をして頑張りたいと思います。

岡部比呂男委員

人口流出という話ですが、木村委員は今日おいでにならないので、静岡大学の学生さんの就職状況というのは、去年のデータが出たところです。在学生の割合は、県外からみえている方と県内がほぼ同数です。県外からみえている方が静岡に残る方が2割、地元に戻る方が8割、県内から進学された方で地元に残る方が8割、県外に戻る方が2割という数字なので、静岡大学だけ見るとプラスマイナスゼロです。ただ問題は、たぶん浜松から首都圏に向かう方が、そういう比率ではないのかなということでは、静岡大学でいえばたぶん、県外からおいでになった方は、もう少し多めに県内に残ってもらって、県内から入った人は多く採らないこともある。そういう比率を変えていかないと、その8:2が両方だと、増えも減りもしないという状況です。県内の人だけ合格させるってわけにもいかないので、このような意味では、高校生が外に出て行く前に、浜松のよさをどのように知ってもらうかという、活動をやっていないと、進学で出てしまっ、その時点で浜松のことを知らない人は、なかなか戻って来られないでしょう。

浜松市長

私もまったく同じ問題意識で、教育委員会にお願いをしているのは、高校では遅いと考えています。小学校、中学校のときから徹底して、浜松のよさを教育してほしいということですね。これは一義的には学校の役割になりますから、教育委員会にその宿題を出しているところです。高校、大学では遅いと思っています。若いうちからやっておかなければいけない。

根本敏行委員

少子化をどうしていくかというのは、もちろん地域の課題でもあるし、一方、大学の立場から見ても、18歳人口は急減する。まさに生き残りの時代に入っています。文化芸大は幸い、今のところ何とか希望者が多いのですが、出と入りということについて言いますと、1つジレンマのようなことがあって、頑張っ、教育をしてレベルを上げれば上げるほど、首都圏に流出してしまう。具体的にいうと、大学院への進学とかということのも、より高い東京

六大学などに出て行ってしまいます。

あるいは、いいことだとは思いませんが、例えば大学の就職の比較が、「週刊東洋経済」などに載ると、一部上場企業に何人就職したかという評価をされてしまいます。あるいは逆に、入って来る高校生の受験生のほうを見ると、どうしても偏差値で見られてしまうので、センター試験とか。そうすると非常に厳しい競争を強いられる。

全国の大学が考えているのは、同じ物差しで測ってセカンドチョイスにならないということです。偏差値が高いとか低いとか、一部上場企業に何人就職したかという、その土俵に乗らない。それも大事ではありますが。むしろ某大学に受からなかったから、文芸大に来たということではなくて、日本の国の中を見渡して、こういう教育を受けられるところは文芸大しかないから文芸大を受けるというようにしていかないと、定着していかないと思っています。

この意味では、市長さんがおっしゃるよう、合法的なえこひいきはあっていいと思いますが、同じ土俵でえこひいきをするのではなく、なるべくユニークな価値観というか、比較優位ではなくて、浜松のここだからこそ進学するというようにしようとして議論して、そういうことも何かしらヒントになるかと思っています。

林寛子委員

基本目標Ⅲ-2 にぎわいの創出のところに、地域の特性を活かした魅力づくりというところがあり、それに関してですが、先ほど前田委員がおっしゃった、外国人の方が、外国語が全然通じないおばあさんの民博に魅力を感じるというのがありましたが、最近、都会に住む家族、子育て世代が、田舎の自然を子育てのために必要だということで、2 地域居住、週末は田舎に住むというような生活様式が、少しずつ増えています。定年退職後に、自然のあるところで住みたいということはこれまでありましたが、今まであまり価値があるとされていなかったような、高度経済成長時代にはあまり魅力と思われなかったマイナス要因と捉えていたところに、プラスの価値を見いだすような思考というものも、出てくると思います。今まであまり魅力と思われなかった田舎や、今は林業や農業も脚光を浴びていますが、そちらの方面に注目すると、浜松ならではの魅力も出てくると考えます。根本委員が「ほかの地域と同じ土俵で闘ってもだめだ」とおっしゃったので、浜松ならではの宝物を再発見し、発想の転換をしていくことも重要なのではないのでしょうか。

杉田光秀委員

人がお亡くなりになると相続があります。今、経済の中で起こっていることというのは、銀行で相続が発生すると、お金は残念ながら地元に残りません。多くのケースでは東京、大阪、この辺のところに相続のお金は流れます。「ヒト・モノ・カネ」というのは放っておけば首都圏に集中します。これは結構うちの銀行なんかでも大きな問題になっていて、それをどうしていくか。これはもうほんとに顕著な例です。

例えば皆さんも、ご家族を考えた場合で、相続が起こった場合、「ヒト・モノ・カネ」というのは、結構首都圏に集中していってしまいます。社会的な財が首都圏に集中する。これは一般的な流れです。

先ほど根本委員がおっしゃっていましたが、そんな中で感じていることは、大学のレベルの話の中でも、同じ土俵、同じ視点でやった場合には、やはり首都圏、中央が勝ちます。これは逆さにひっくり返っても、なかなかその流れは止めることはできないです。

そうではなくて、われわれがやるべきことというのは、地方の魅力を創出する。例えば企業にしてみても、例えば子育てに優しい、聖隷さんなんかも選ばれていますね。子育てに優しい。うちの銀行も選ばれましたが、要するにそういうものをどう浜松の企業に DNA を植え付けるか。浜松の企業は子育てに対して、非常に優しい企業が多いというような格好で、ほかの地域がやっていないような企業に対する啓発であるとか、具体的に動きをしていくということが、1個1個の草の根になっていくのではないのでしょうか。

海外についてもしかりですね。これほど海外に近い地方都市というのは、まずもってありません。私も東京から大阪まで、いろいろ支店を見ているんですけども、東京、大阪、名古屋を除いては、おそらくここが一番海外に近いです。そんな中で、特区であるとか、いろんなことをお考えになって、これはほんとに素晴らしいとことですね。

私も HICE (ハイス：浜松国際交流協会)というところの所属もやらせていただいていますけれども、そういった意味で、いろんなインフラがそろっています。そろっていますが、まだまだ使えていないのが現状です。そのところを、どう具体的な行動に移していくかという部分は極めて大事で、強化するような動きをされていったらどうかと思っています。

8 閉会

企画調整部長 山名

第1回目ということで、テーマを絞らずに、皆様からさまざまなご意見を頂戴しました。われわれも総合戦略の実行段階として、これから進めて行くに当たって、今日いただいたご意見も、非常に参考になるところもございますので、ぜひ活かしていきたいと思っております。

また、先ほど申し上げましたように、次回は進捗管理・検証がございますので、具体性を持って皆様方に資料を提示し、ご意見を伺いたいと考えております。

予定していた時間になりますので、本日は、これもちまして終了とさせていただきます。長時間のご参加、どうもありがとうございました。

(終了)

文責：浜松市